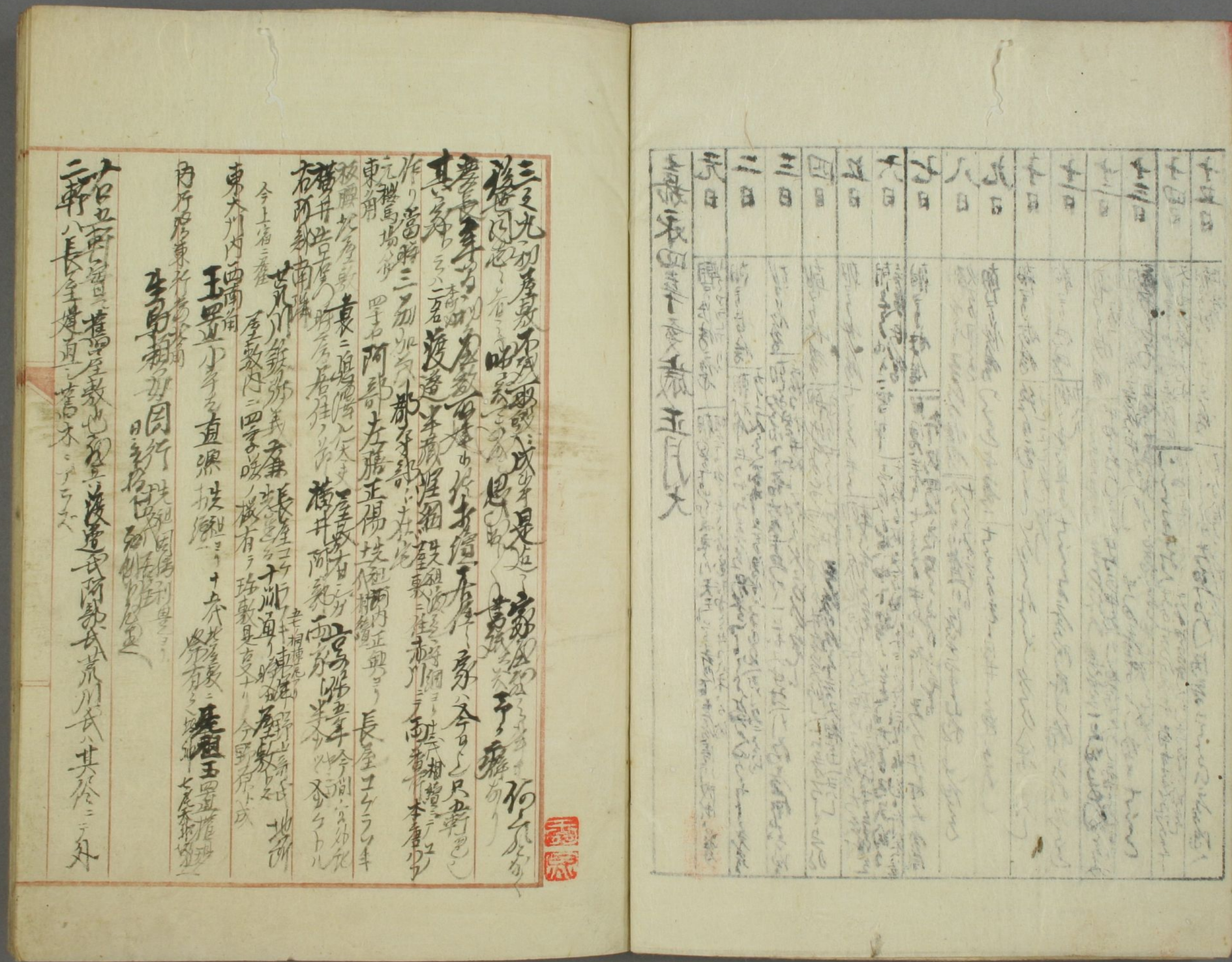
舊鄙
雜之雜集
乱筆之雜録

特別
14
696
29

926
29



中村内匠　志水忠平

右東藤　滝川文蔵　忠晋

右新藤　滝川東藤本分　滝川亀三郎　忠

右新藤　尾張義長屋　尾張根

右東藤　浮田　浮田義長屋　本早ト

右東藤　横井兵吉府

右東藤　澤井三郎

右東藤　肥田彦三郎

右東隣上野国右京

右東隣角元神原川之西左

猪義隊之者三人居

右東隣人見弥兵

右東隣小笠原左馬之丞

右東隣大久保主殿水直道

右東隣生駒右衛門尉

長屋尾板橋

長屋尾板橋

長屋尾板橋

右西隣七間　横井政之助殿　長屋瓦葺

右西隣　横井直蔵殿　長屋瓦葺板

右西隣　赤林孫七郎殿　長屋瓦葺板

右西隣　[illegible]殿　寺[illegible]殿　長屋瓦葺板三ツ有之ニカ条ハ原

右西隣　上西大[illegible]　長屋瓦葺板

右西隣　北　[illegible]井雄[illegible]　長屋瓦葺板　塩[illegible]

右西隣　横井萬[illegible]　長屋瓦葺板

右西隣　大[illegible]南西

[illegible]　長屋ユケラ葺板棟瓦[illegible]

[illegible]　長屋[illegible]

[illegible]半年[illegible]

[illegible]

右西隣　大[illegible]南西

[illegible]　長屋瓦葺板門、定[illegible]門[illegible]

右西隣　天野[illegible]　長屋瓦葺[illegible]

右東藩[illegible]

長屋見獅子[illegible]

右同藩[illegible]

吉東馬二疋　長屋見獅子二疋有之候ハヽ

右同藩[illegible]

地東馬二疋　長屋見獅子

右同藩[illegible]

水戸図[illegible]　長屋見獅子新造

右東藩[illegible]

長屋見獅子

右東藩

山見清[illegible]　長屋見獅子

右東藩[illegible]

長屋見獅子

右東藩[illegible]

馬場三郎信久　長屋見獅子

右ハ長沢[illegible]老年東藩ヶ門[illegible]

右東藩

[illegible]年乾造　長屋ユケラ獅子

右東藩[illegible]

長屋見獅子

右同[illegible]

長屋見獅子

右東藩[illegible]

寛文二年[illegible]

右東陣 [illegible]谷七郎右衛門尉貞 長五尺 鍬板

右東陣 右衛門尉十郎貞国 長五尺鍬尾ノ長柄ノ弟ト云

右東陣 [illegible]田 長五尺鍬板

右東陣 川村左衛門尉典 長五尺鍬板

右東陣 [illegible]半右 正直 長五尺鍬尾ノ新盛

右東陣 荒川弥[illegible]義[illegible] 傳前ニ記ス弟

右東陣 [illegible]谷 長五尺鍬尾未ノ刻ト書[illegible]

右東陣 [illegible]衛 長五尺鍬板 冬八弟

右北陣 東面 [illegible]正 長五尺鍬板 傳前ニ記ス 酉年

右西陣 北面 [illegible]宮六郎 正高 長五尺鍬板門弟

右西陣 [illegible]郎 長五尺鍬板 傳前ニ記ス

右西陣 [illegible]郎 長五尺鍬板 傳前ニ記ス

右西陣 [illegible]大十郎 長五尺鍬尾 長柄ノ大ト云 前陣

右西隣上地 溝口 福寿国 長屋尾張守
当主八代迄当村小屋敷ニ住居
当主五代目ヨリ御長屋住

右西隣 津田兵十郎信教
長屋尾張守

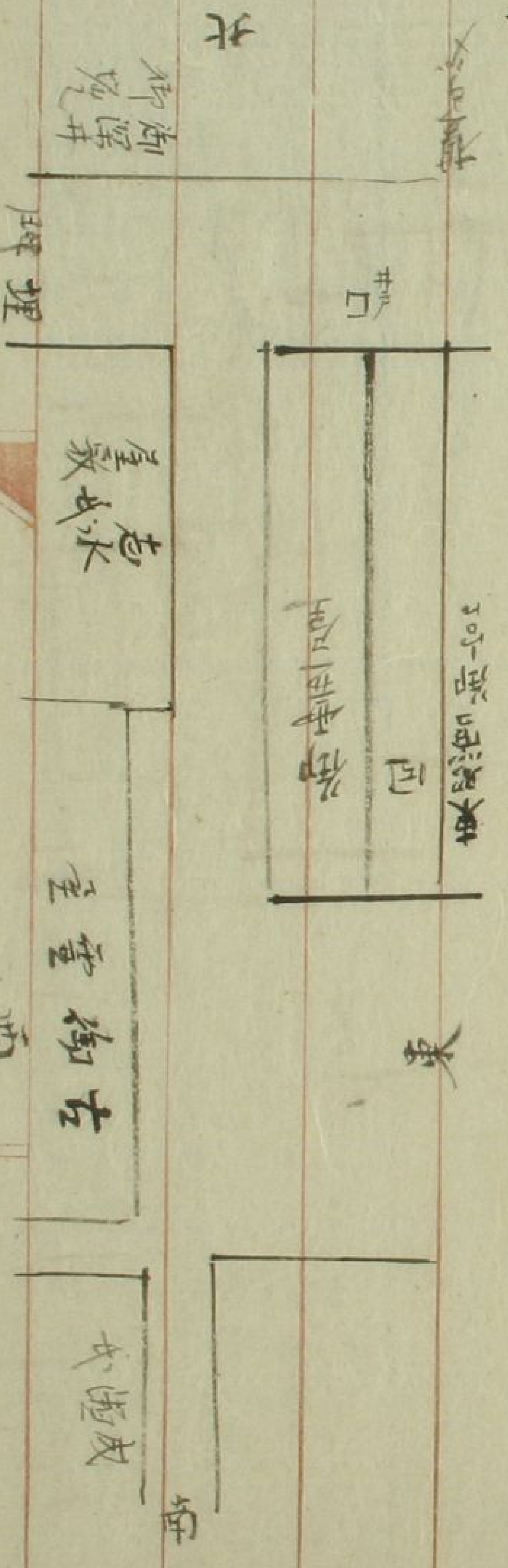
右西隣 鈴木彦三郎重光 長谷川ヨリ拝領
当主ヨリ二十代目

右西角 鈴木 安政

小瀬新右衛門 竹腰山城守正時 同 若狭守正篤
右二軒ヨリ一屋敷トシテ寛文三年卯ヨリ
右代相続 明治二年己巳六月十二日ヨリ

大名小路西南角 義事所
此屋敷ハ元中村氏二代 高木氏三代 伊奈氏代 横井二代 右二軒ヨリ一屋敷
成瀬隼人正正親 同 小吉正幸 同 隼人正正泰 同 隼人正正典
同 隼人正正寿 同 主殿正雄 同 隼人正正肥 右七代相続
元ハ霊屋御東南角ニ 竹腰氏二代居住ス 寛文十二年 隼人正門ニ

埋門内之略図



寛文二年三月

同　志水甲斐忠政　同　甲斐忠鎮　同　京之助忠秀　同　右門忠休

同　甲斐忠宗　同　甲斐忠如　同　甲斐忠珍　同　甲斐忠喬

同　羊之忠忠愛　同　釜之助　同　黄門忠尊　同　小八郎忠愛

同　半右忠置　同　録治正平　十四代相續

元和霊屋第天王前ノ右西南角

東

成瀬次佐ノ忠正吉　長屋尾藤元文化中建立　今ノ原ト成

西ノ上方ハ右成瀬東ノ西北ノ端ノ　長屋尾藤板　吉見茶助

同南隣　湯宮　長屋尾藤板

同南隣　中山右衛門行宗　長谷藤板

同南隣　水野茂馬　長屋藤板

南隣　中隣　長屋尾藤小右衛門　右代以前ノ者ハ藤原永代

是ハ元和霊屋外　為角庵　原屋敷ノ地ノ代藤原文ノ也

東角西面　富永二藏忠直

其東隣北面　高木作右衛門　藤原藤板　第

伏見ノ東角　野口瀬直　板藤第

右ノ隣　長谷ノ左衛門　藤原藤板

[illegible]東角
土味[illegible]守直

右[illegible]
元横井[illegible]
[illegible]

長[illegible]東角
元佐藤[illegible]

[illegible]西角
元[illegible]奉行所

各區[illegible]所

[illegible]東角
元[illegible]所

刑法局　上[illegible]院

上[illegible]東角
元[illegible]社奉行所ヨリ神祇局

右東[illegible]
元[illegible]奉行所
[illegible]

[illegible]東角
[illegible]重任

百[illegible]

右東隣伊勢屋西角東西
右黒ゝ善ゝ添

伊勢屋東角
富永[illegible]兼作

右東隣大津屋西角北
中村一吉親禮

大津屋東角
[illegible]川[illegible]

右東隣
[illegible]

[illegible]屋西角北
[illegible]

[illegible]屋東角北
松井小[illegible]賢[illegible]

右東隣人屋西角
[illegible]

[illegible]屋東角
[illegible]井作[illegible]

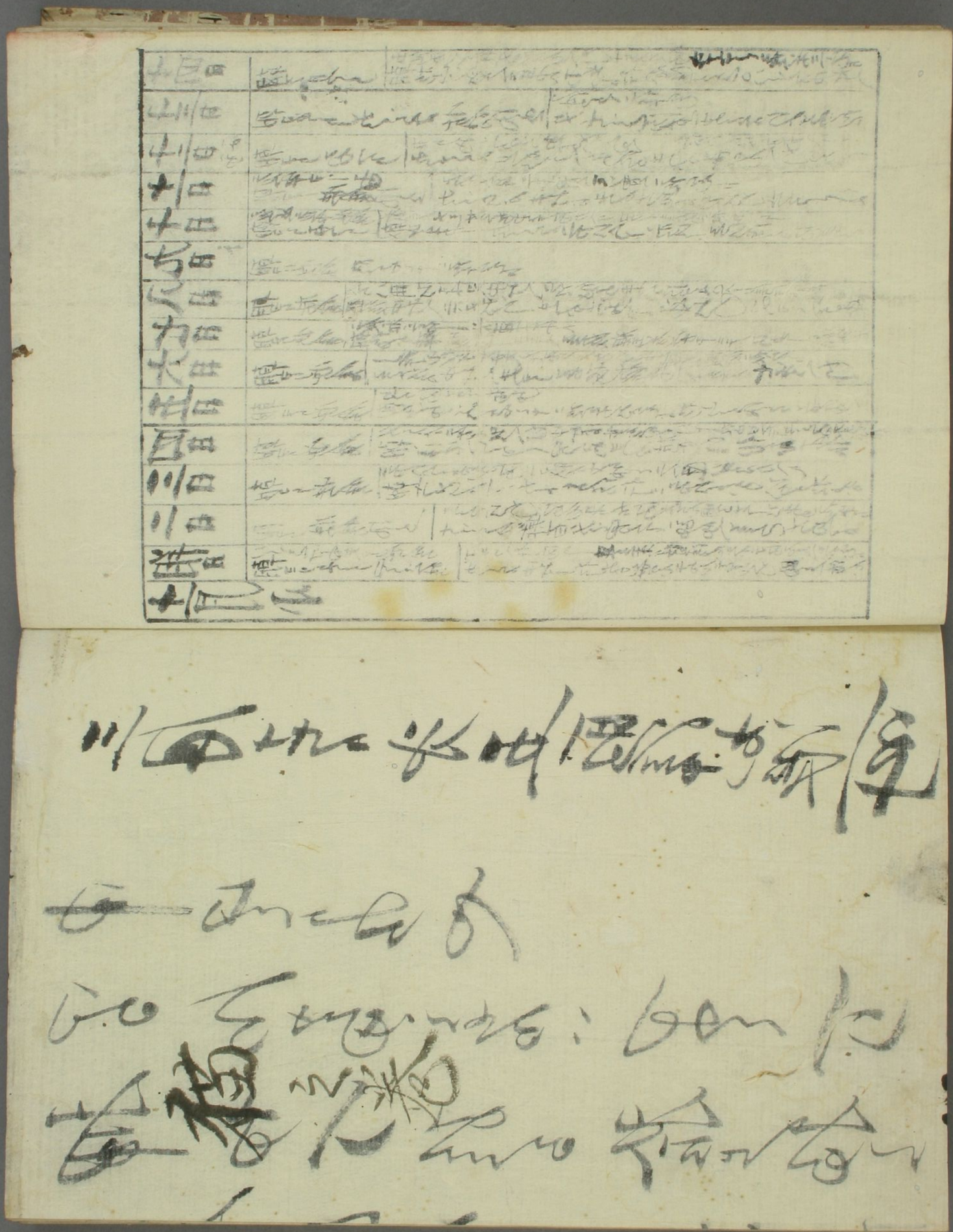
右東隣武[illegible]西角東
[illegible]千村[illegible]仲長

武[illegible]屋東角西
小[illegible]不[illegible]成屋[illegible]

右東隣北ハ
川瀬佐[illegible]
右南隣北ハ
山村[illegible]
右北隣南ハ
[illegible]
右西隣ハ
佐枝新[illegible]
右隣ハ
[illegible]宮兵治

右北隣ハ
荒川天[illegible]
右北隣ハ
[illegible]
右北隣南ハ
山村[illegible]兵衛
右北隣東ハ
[illegible]

長塚
萩
山中
馬場
所見馬
成瀬隼人正正肥中屋敷
萩
萩
萩
萩
菅
川
菅



南留別記 小松市

文政六年四月

武蔵国高麗郡の人なり[illegible]

[illegible]

逢て別るゝ事あどこれなあらん　二字

鄙事記 小松市

[illegible]

○海外新聞

第四号

一寄書文の部ニテ一ツ前号ニ載セタル長崎ノ人ノ書ニ曰ク

今ヨリ十七年前ニ「ウート」カリヒ

ヤ[illegible]ニ[illegible]ノ[illegible]ニ[illegible]ノ[illegible]ニ[illegible]ノ

開成雜話目録

[illegible]

報知新聞

外國新聞 [illegible]

東京日日新聞

[illegible]

○五元集、十八日の二句にて
上洛の事、京都の物ども
○新ものの二句は頭成に
高橋の形ゑん新もの
ゝ

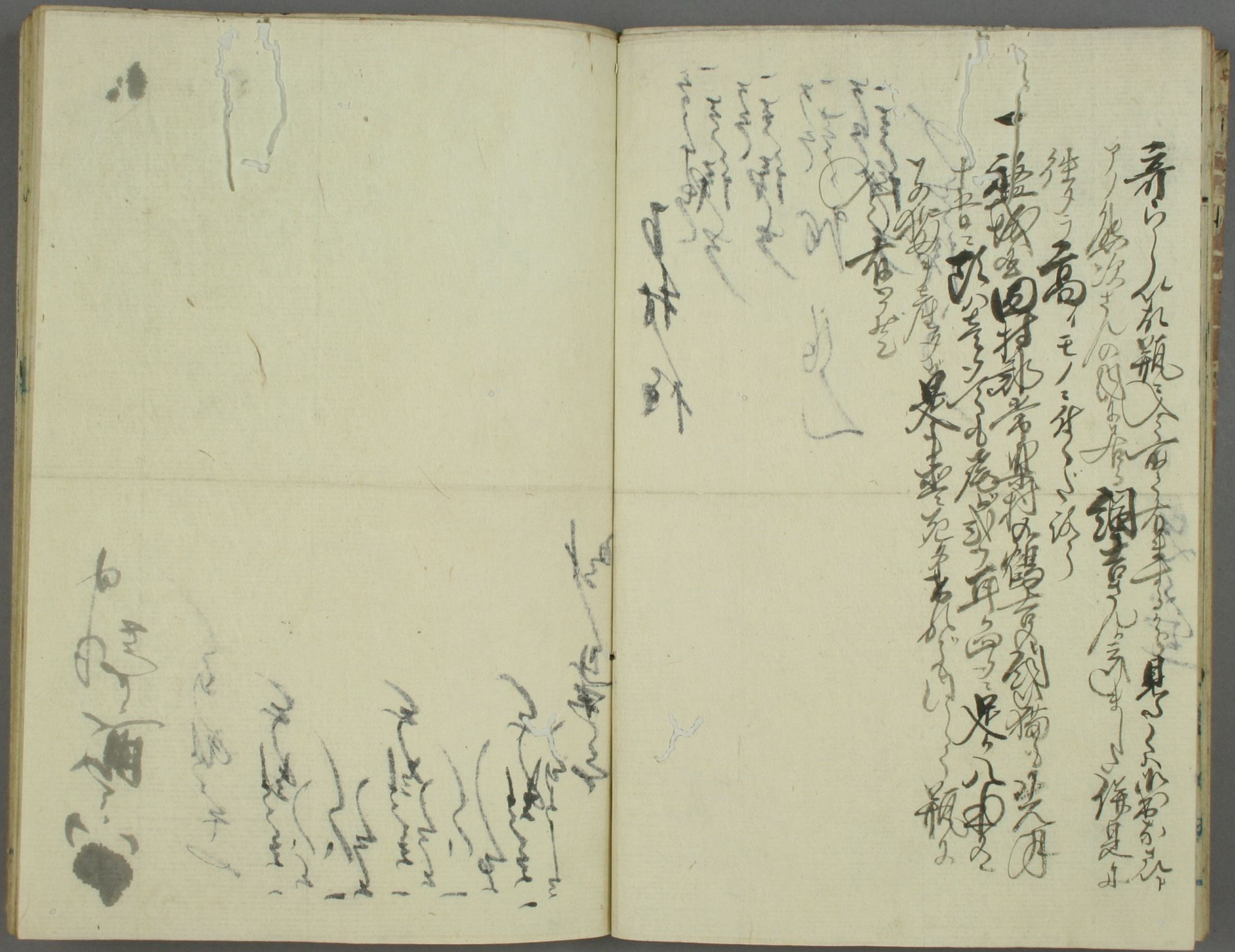
八日
九日
十日
十一日
十二日
十三日
十四日
十五日
十六日
十七日
十八日
十九日
二十日
二十一日
二十二日
十月大

三年甲子の春
有
陸
一疋の馬
是ハ養
厩
知
年
馬
年
馬
馬
馬

[illegible]

○西湯殿雑記曰猫洗面過耳則客至
[illegible]和郡の俗説の猫洗面の侵ト云
[illegible]耳を
又主人曰猫不過楊子金山音過金山則不捕鼠
[illegible]

東京雑記
[illegible]
[illegible]
[illegible]



以下
8丁
白紙

十五日	[illegible]
十四日	[illegible]
十三日	[illegible]
十二日	[illegible]
十一日	[illegible]
十日	[illegible]
九日	[illegible]
八日	[illegible]
七日	[illegible]
六日	[illegible]
五日	[illegible]
四日	[illegible]
三日	[illegible]
二日	[illegible]
朔日	[illegible]
正月	[illegible]

東窓閑話

松永[illegible]

猿楽乱舞能楽各別のもの[illegible]
西川伯後[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]曰又有散楽之態[illegible]
成夫婦之躰等[illegible]

發艷言、後及交接、都人士女、見者莫不解頤、
斷腹輕輕、至甚也、[illegible]
[illegible]
[illegible]

住吉大明神　又の尉　迦陵頻伽　笛ハ大和笛　映の大明神　小鼓いろ
〻海の大明神　大鼓　清涼　鼓大明神
太鼓ハ長列　源氏　又ハ　八幡〻の法〻
張ひしゝと申り　能こゝろ　ふゝと　能と云む
其源氏　とり給ふ　帝より　義川　清ゆ　作〻　天
下安全　其義　又ハ　法〻　後生の為ゆ　面白
と能山　とゝゝゝゝ　川　清ゆ　二十二番
其能　能を始面也　今ハ　能の人〻
和平　とあげゝゝ　打〻　一曲　一番の能

海〻ゝ　作〻　中　作〻　作　作　波　作
面人　曲の名人　有　曲を　再興　面人
六番　能を　作り　数の　能と　中ハ　舞り　作曲
金春也　殿ハ　観世　也
一楽　長人　鼓　の　曲物　ハ　ゝ　海〻
ゝゝ　人　男　の　ハ　海　ゝ　ゝ
海〻　打上　曲　風　ハ　人間　舞　舞り
一海　ゝ　釋　曲　也　法　ハ　ゝ　法
人　海　海　海　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ
支笛　小鼓　大鼓　太鼓　鼓　輪　と　書

北水火風空をとゝのゝ吉文八字の字にたゝ
とく筆を風の字のゝとゝのゝ字を火の字の字
たゝく大鼓を水の字のたゝく大鼓北方の字
たゝく鼓也

一能組の事一日に六番也はじめ六十六ゝ
面にて役の行者行基菩薩出て水をはらゝ
分給へゝ六十六ゝ人のゝ心をもつて誓の声
云事なれば面をもつて別り給事水のゝまり也
はじめも六十六能のゝ面を掛る所も六十六番
長数春ゝゝ一日に六番に定一番に弧

能始云をひく事神能に定たり二番に
修羅を十り事一説を作ゝく
世を治恵魔祓ゝふゝけ為に修羅を用
ゝり二番にゆゝけん出ゝゝつゝゝる
ゝて世を出光香にて面ゝゝ舞
ゝゝ中三番ゝゝ
ゝゝて神三番ゝ叫ひゝ出ゝ
な面ゝ出ゝ恵方ゝ
ゝ云にゝゝゝ神事に申楽
ゝてゝゝゝ天下ゝ年ゝなる

も能く威徳なり

大和申楽之次第

第二　天照皇太神　翁舞　蓮主殿

第一　八幡大菩薩　千歳　鈴太夫殿

第三　春日大明神　三番三　神楽太夫殿

春日殿は二十人（出家）宮人（社家）頭の

蓮主殿は七人（神官）宮人（迦葉也）春日殿は

七百二十の舞の頭なり申楽は春日明神の

御守なり毛利殿御舞なり三番目は

立阿弥よりて三番申楽と号し神不

大将なり毛利殿御代なり

申すこと云ふと書て此座と号し春日社所

の神は一人なり一番八幡大

菩薩二番天照皇太神二番春日大明神

又は殿守人（神）の御事なり宮人神を

三人出し父母の御神第宮と書御神と

申す也天照皇太神宮八幡大菩薩

春日大明神の御社なり父母なりこれ

の面をうかがひ父母なりこれ

式三番を造る天長地久の祈禱なり

有為実之事なり

[illegible]
春日神社の社寺なり天竺まちの
御こう寺中一寺あり其時の書人の神
天竺さい宮れ日なを宮れち絵
能さん法寺の門てを見なれぶと
ゆめたりしゆりなる能とふるの
一たりのこれの小鼓いれれるやくいぶ
ひよりしくいまと
一さぐり松の小鼓の事大事井之方なり
笛をひいて吹事見自在とふ高な

りの小鼓たりとくと三度打事九曜の
りを表大鼓はなりけりをいとや
を面白くなる事りりをとる取をる
細なり又中をそとあけそこ後く
なるをりと云ふ代なり笛を自在と
吹度そりと打事自むま面と書
を是とある天
さひちさひ天りて日本と声を
立くよりゆ九つりりて松を枝
りくりりゆ是りり松をりく

けれど松ヶ下りて行て敵の事天
長地久御祈願満願なり御口伝
あり笛もうくしたくの口伝あり
既云り段の口伝を定る御ゆるしあり
次なり土月廿七日御ゆるし
為年勤金春金剛ゆ弓矢の立合なり
観世保生ハ舩の立合なりけれど能
なて初るの位ハ二人の位を初て物事
習なり小鼓ハ右ハ事ハ小ゆ松の
ふ伝学ハ松ヶ下天より天照皇大神宮と

すの弓を以つて射るゆゑ笛小
鼓天長ハ段神の御伝なりけれ
ハ笛小ハ本もあく業小なる
ゆりの松ヶ下りて国安八月御願所御
神事能の番ハ屋立合能を勤るなり

弓矢立合

文安廿五年の月出ける。二笛の小
かくやき。刀ハ三ヶ所の御いなり。春日
野く弓のみちをんそうぢれい神恵佛
力海ものくに。生安金の伝ちなり。

詞

実方雅時とうやう。

天長地久御代圓満。まことのやうくたる君は

ちいまひの君をんなれば。弓矢の道云や

ちうするにくい。いりよ交屋海〜中の〜。

かつ面目を長南ちいれいの三をんなれば。

弓矢のたうけんやちられいく

大夫

桜の弓蓬の矢ばまつうてと海とてやく

だうりたり。あらま雅やいまやちち

ハ我ホしけい屋うちもや三月をつる屋

四。弓ちう月のやちりくしまで

花あくこの弓矢の家をまもらんく

成され八十長りの流まく水と義の

や弓張の月あまれ月を夜うみる。

張れる世代のそれとうや

天皇ハ〜大悪の弓を智れ夫をたま

まつて二番の眼やあらく見深ハ

ハ弓矢をもつく。陰陽の深をひらき

まちれハ大ハまの文殊。陽雅とりん

ちくれいをとりく。弓を法ちう。安全成

あらうく矢とあせり。又我朝ハ神功皇

居ハ西七の道后なりそ年 長元年と
家へたり。應神天皇八幡大菩薩水と清泉
花洛水あられ出すえ。そうくしけれ。
面へすたりたりあうりゆうく

開口ワキ

船弁慶

文面不にり也紀ま海八幡のおぼそ
と。神の威光ゆ。ニ位れ山そ
まりくゆき。万代そしまりな北国
度りたる。ゆとうや。いく反や海まん
天地長久の御方海のみぎんれ。船乃

祝云やーさうやと海ない。
名所へ祝くあれ海豆ごしそれ
たり学問ーー中せた。舟のすえなる
事いのーすい音やーーて水ゆ渡ーーれ
やこけとよ渡ーーれ行よ影そよ渡
ー将 利生方便の観音 水波西戒の
れそれのーざいのんとけりつ牛馬けん
そくゆうふて真実をけりあり。
まりはひと命と海すくん。
幸と栄とぶまくのむ

祈のうくをたまうて利生の所をいを
あらはす　たへすうたうあらう
ゆくう〜
其後神護天皇御宇宗雲二年二月
六日より河内国生平岡に春日大明神は
三笠山へうつらせ給ふ二月
六日より本社神殿造営ありく
たまふ八月六日より社の
まつりと稚児の舞ありて
同七日より四社のうち二社つて立合
出船の番のくせとうたいとうたふ船歌
すの事　子細の日春日をいとなをすす
敬て文今の大明神三ヶ七百人の
神頭たり見物衆群集たり右二月
七日より十四日のうち若宮御供あり
て一社宛三番勤同日門にて一社船
三番勤也天長地久月出震旦月出
あり

于時安政五年
三月写ス

小寺行廣

由緒書

今春廣成

由緒書

秦大津父

本住山背紀伊郡深草里
欽明天皇朝時有感夢之事而物色得諸於深草深羅
葬之及後
日本書紀卷十九
雄略大藏省

天皇朝時夢有人云
大必有天下寢驚遣使普求得自山背国紀伊郡
深草里姓字果如所夢又於是所告遍身歎未曾夢乃
告之曰汝有何事　答云無也但臣高伊勢高價未
還山逢二狼相鬬注血乃下馬洗漱口手祈請曰汝是
貴神而乘後行儻逢獵士見禽尤速乃抑止相鬬
拭洗血毛遂遣於之俱登全命天皇曰必此教也乃令
近侍優寵日新大致饒富乃至成雄略大藏省

天皇寵愛秦大津父者及住

一二代
大津父子也饗之賜爲大蔵省

秦廣隆

一三代

秦河勝

廣隆子幷小德冠　聖德太子御作小墾田舞授河勝命
掌之是爲秦朝臣樂之權輿至是河勝名頗著甚挑華
稱爲御記紫雲幷黄雲清書系圖等載之尤爲詳悉
是以今春家子孫以河勝爲家藝之皇祖云拾芥抄
引天香御記云紫雲殿秦河勝免所云云依御記
觀之河勝之顯以於朝廷實矣

詳

日本書紀卷廿二
推古天皇十一年冬十月己巳朔壬申遷于小墾田宮十月
己亥朔皇太子謂諸大夫曰我有佛像誰得是像以奉

幷將秦造河勝進曰臣得之使受佛像因以造蜂岡寺
十八年冬十月己丑朔己卯新羅任那使人參於京云云客
等拜
朝廷於是命秦河勝中部連菟名部連尊者
皇極天皇三年秋七月東國不盡河邊人大生部多勸祭
虫云村里之人曰此者常世神也祭此神者致富與寿巫
覡等遂詐託託宣言神語曰祭常世神者貴人致富老人
還少出是如勸授民家財財宝積聚酒菜六畜於路側而
便呼曰新富人來都鄙之人取常世虫置於清座歌儛
求福棄捨珍財都無所惜座歌儛
河勝恐民所惑大出部多其巫覡等
入便作歌曰
恐休其勸祭財
禹都麻佐波　柯微騰母柯微騰　枳摩枳摩　宇智波多麻須母
柯微平　宇智波多麻須母
此虫者常生福樹或生橘樹
又曾拌　曾拌此云哀曾紀　其長可餘其

大如頭指許其色黑而有黑點其貌全似養蠶

一四代　秦萬里

小德冠河勝之子孫正四位上行大藏卿兼敎樂博士為諸國土風歌舞所領上古熊招之意ヲ以敎樂之悲ヲ起家聲之為事矣

日本書紀廿六

齊明天皇四年冬十月庚戌朔甲子幸紀湯

天皇遣皇孫建王時年八歲悲泣乃口号曰　那麻右衛戍

于湯侯把留騰母公母之據伊麻紀能禹智摘侯須羅度

寿百班　其源儀度能子之養能矩娜利于那倶娜利于

盧母倶例尼飯岐之度狗度狗度狗武　其二　于都倶之枳阿歌

侯柯枳古弘飯岐度狗度狗武　其三

詔秦大藏造萬里曰傳斯歌白今之忘於也

一五代　秦廣氏

孫近衛敎樂博士新羅

一六代　秦廣勝

孫式部

一七代　秦重正

一八代　秦安盛

一九代　秦隆信

孫式部

一十代　秦元春

孫式部

一十一代　秦武長

孫式部

一十二代　秦忠勝

孫式部

一十三代　秦廣時

孫式部

一十四代　秦實親

孫光名

一十五代　秦重則

加名十郎号西海道敎樂博士世參之

一十六代　秦廣真

孫滿太郎

一十七代　秦隆榮

孫源四郎

一十八代　秦氏喜　一十九代　秦安貴
一二十代　秦武俊　一二十一代　秦氏安
一二十二代　秦氏安　一二十三代　秦氏安
一二十四代　秦氏安　一二十五代　秦氏安
一二十六代　秦氏安　一二十七代　秦氏安
一二十八代　秦氏安　一二十九代　秦氏安
一三十代　秦氏安　一三十一代　秦氏安
一三十二代　秦氏安　一三十三代　秦氏安
一三十四代　秦氏安　一三十五代　秦氏安
一三十六代　秦氏安　一三十七代　秦氏安
一三十八代　秦氏安　一三十九代　秦氏安
一四十代　秦氏安　一四十一代　秦氏安
一四十二代　秦氏安　一四十三代　秦氏安
一四十四代　秦氏安　一四十五代　秦氏安
一四十六代　秦氏安　一四十七代　秦氏安
一四十八代　秦氏安　一四十九代　秦氏安
一五十代　秦氏安　一五十一代　秦氏安
一五十二代　秦氏安　一五十三代　秦氏安
一五十四代　秦氏安　一五十五代　秦氏安
一五十六代　秦氏安　一五十七代　秦氏安
一五十八代　秦氏安　一五十九代　秦氏安
一六十代　秦氏安　一六十一代　秦氏安
一六十二代　秦氏安　一六十三代　秦氏安
一六十四代　秦氏安　一六十五代　秦氏安
一六十六代　秦氏安　一六十七代　秦氏安
一六十八代　秦氏安　一六十九代　秦氏安
一七十代　秦氏安　一七十一代　秦氏安
一七十二代　秦氏安　一七十三代　秦氏安
一七十四代　秦氏安　一七十五代　秦氏安
一七十六代　秦氏安　一七十七代　秦氏安
一七十八代　秦氏安　一七十九代　秦氏安
一八十代　秦氏安　一八十一代　秦氏安
一八十二代　秦氏安　一八十三代　秦氏安
一八十四代　秦氏安　一八十五代　秦氏安
一八十六代　秦氏安　一八十七代　秦氏安
一八十八代　秦氏安　一八十九代　秦氏安
一九十代　秦氏安　一九十一代　秦氏安
一九十二代　秦氏安　一九十三代　秦氏安
一九十四代　秦氏安　一九十五代　秦氏安
一九十六代　秦氏安　一九十七代　秦氏安
一九十八代　秦氏安　一九十九代　秦氏安
一十代　秦氏安　一十一代　秦氏安
一十二代　秦氏安　一十三代　秦氏安
一十四代　秦氏安　一十五代　秦氏安
一十六代　秦氏安　一十七代　秦氏安
一十八代　秦氏安　一十九代　秦氏安
一二十代　秦氏安

一四十二代　秦　照重
一四十三代　秦　信盛
一四十四代　秦　喜則
一四十五代　秦　氏正
一四十六代　秦　正勝
一四十七代　秦　安盛
一四十八代　秦　元忠
一四十九代　秦　安實
一五十代　秦　昭信
一五十一代　秦　重盛
一五十二代　秦　實勝
一五十三代　秦　氏忠
一五十四代　秦　正信
一五十五代　秦　忠治

一五十六代　秦　喜氏
初名今春又号昆沙王時人孫昆沙王權守氏安三十
六世孫大和權守位階失傳
一五十七代　秦　清實
一五十八代　秦　勝清
初名昆沙王次帝大權守位階失傳
一五十九代　秦　元清
初名彌三帝又号式部大夫
一六十代　秦　氏信
初名彌三帝又称七帝從五位下式部權大輔
嵯峨天皇御宇依閑院左大臣之奏詣始奏正樂於
春日社使河勝之子孫掌其事
孫春日本座又孫圓滿井時紀朝臣東唱今樣
一條帝御宇正樂今樣並奏舞奏氏孫本座紀氏孫
新座而其趣大有經謂至

信下恐脱
從字
衰

延衛帝後
白河帝御字瀬夫正樂之上旨今稜日盛是亦時運
所使然也而更加新二座
後小松帝朝及足利幕府義滿雖奏敢樂能優新
典於春日社而新西日月盛而古樂之微意漸然衰
仁之乱氏信兼良之赴南都紹失家領或任大和
伊勢或京都家務大衰然尚屬於春日矛隆其職
元歳時祭祀必有所與焉云

一六十一代　桑　元　氏
号竹西孫七郎又称武郎

一六十二代　桑　元　安
幼名弥三郎孫八郎後人孫乾者古樂正風今稜
中之僅存餘半者也而氏信元氏元安所述作頗多
其後無復加增者也

一六十三代　桑　氏　照
元安孫孫大七郎　相傳氏照父　某年十八歳而先父没是以
氏照襲祖業嗣其衰氏照仮倆頗精巧足利幕府掌歎之
賞八郎
朋大字称大七郎時呼大太夫

一六十四代　桑　喜　勝
孫八郎

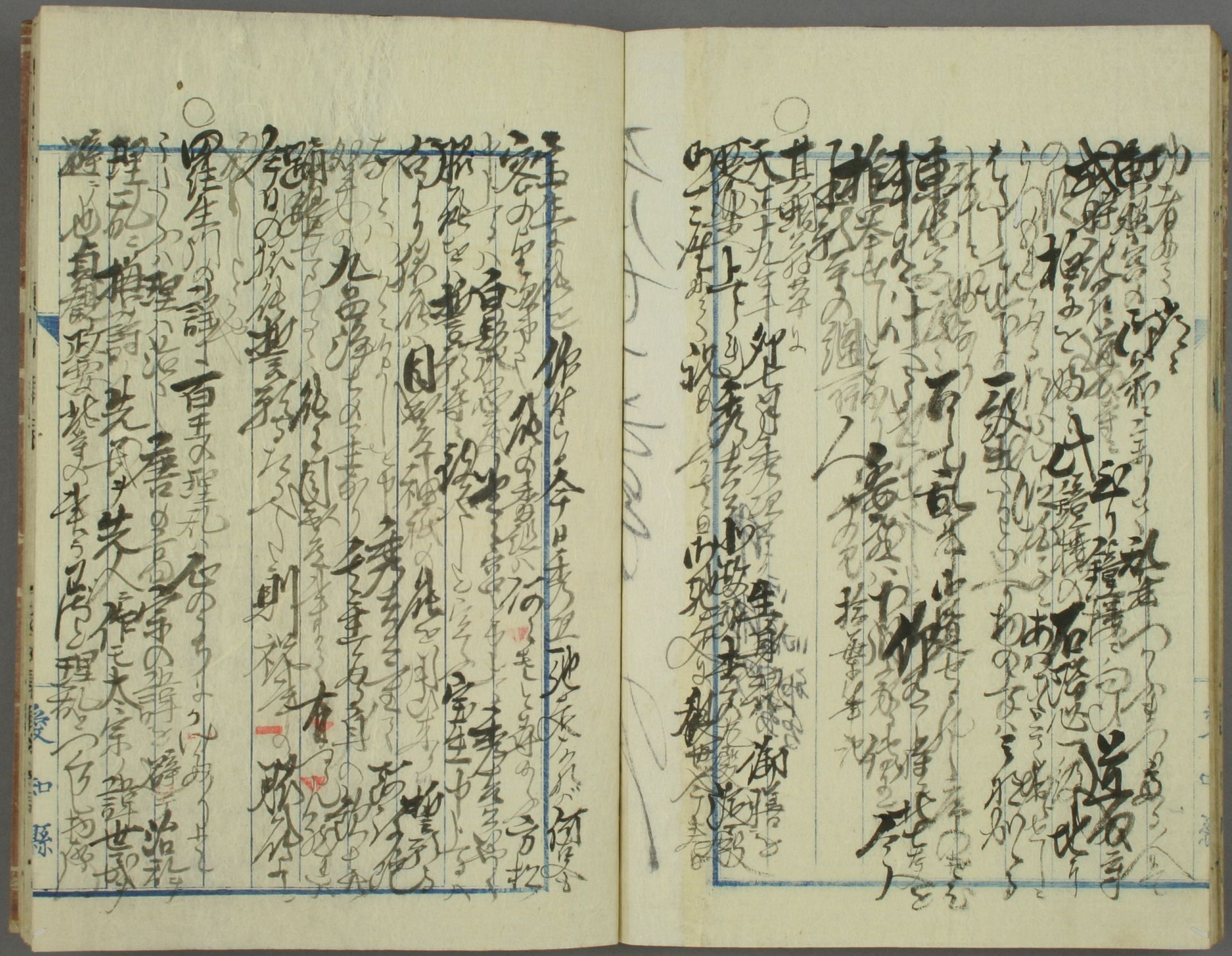
一六十五代　桑　安　照
幼名七郎後孫八郎家乾之精絶一時有勝寵自高祖父元氏失
家領而落魄矣殿時豊臣氏詣天王寺申請舊記始知今春
家之復歴乃蒙賜家食邑三千石安照固辞遂賜五百石亦後
至德川氏安照口賜五百石

一六十六代　桑　氏　勝
孫七郎豊臣氏幕代父元氏領圓満井座技雖不及安照亦頗
窮正樂古乱與儀作數樂三四文安照没後加賜五百石

一六十七代　秦　重勝　一六十八代　秦　元信
孫七郎武勝子以早世養祖父業之
一六十九代　秦　重業　一七十代　秦　重休
初名武勝孫八郎又孫七郎
一七十代　秦　信尹　一七十一代　秦　武胤
孫十次郎　初名満次郎孫七郎
一七十二代　秦　隆肇　一七十四代　秦　氏政
初名武左郎孫八郎　初名武左郎孫七郎
一七十五代　秦　安親　一七十六代　秦　元照
孫八郎　初名八十左孫七郎

自大津又至當代七十七世而遠祖歸化之時至今
連綿相續罷在候
右之通御座候以上

今春廣成



○[illegible]

○[illegible]

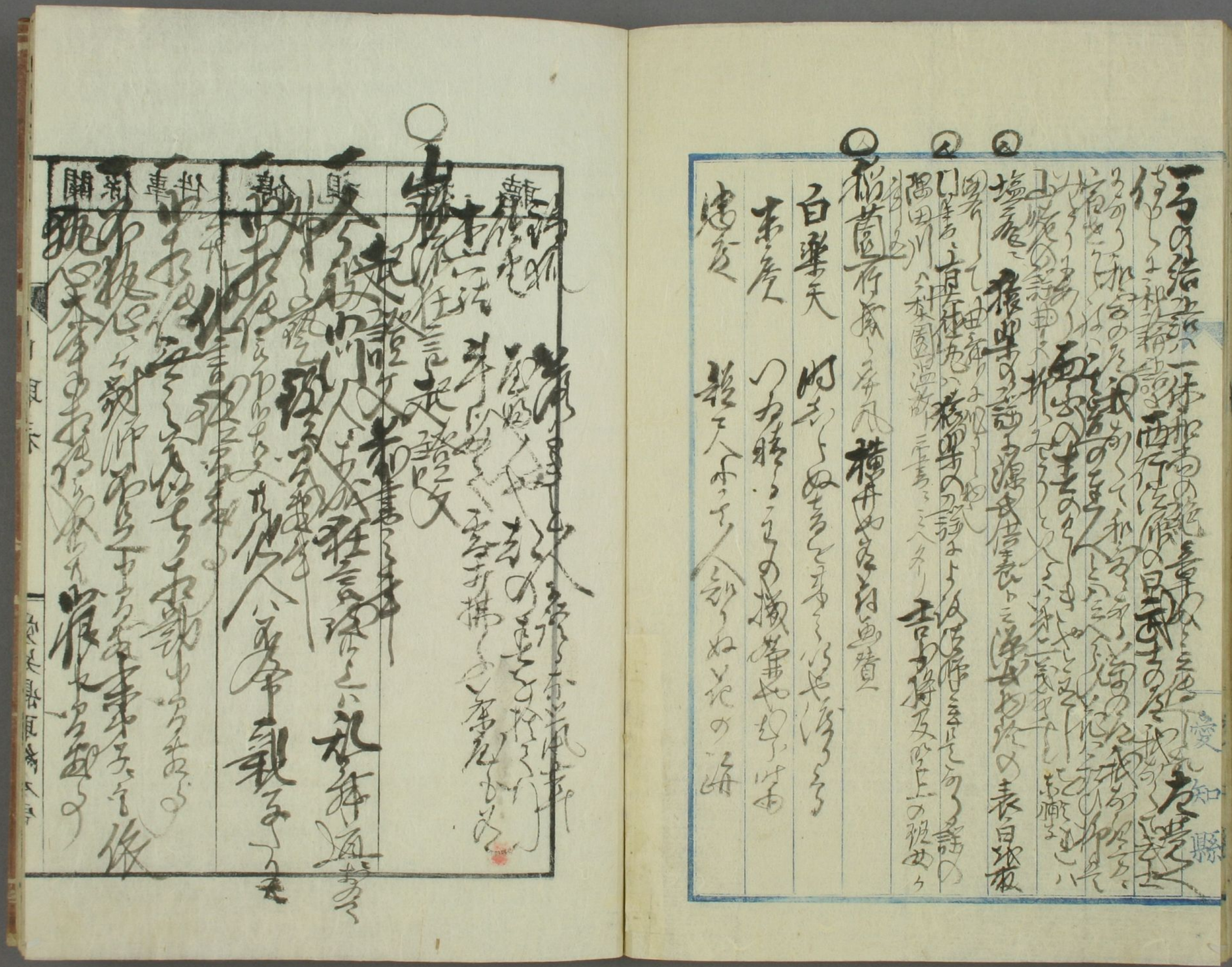
○大江山の話

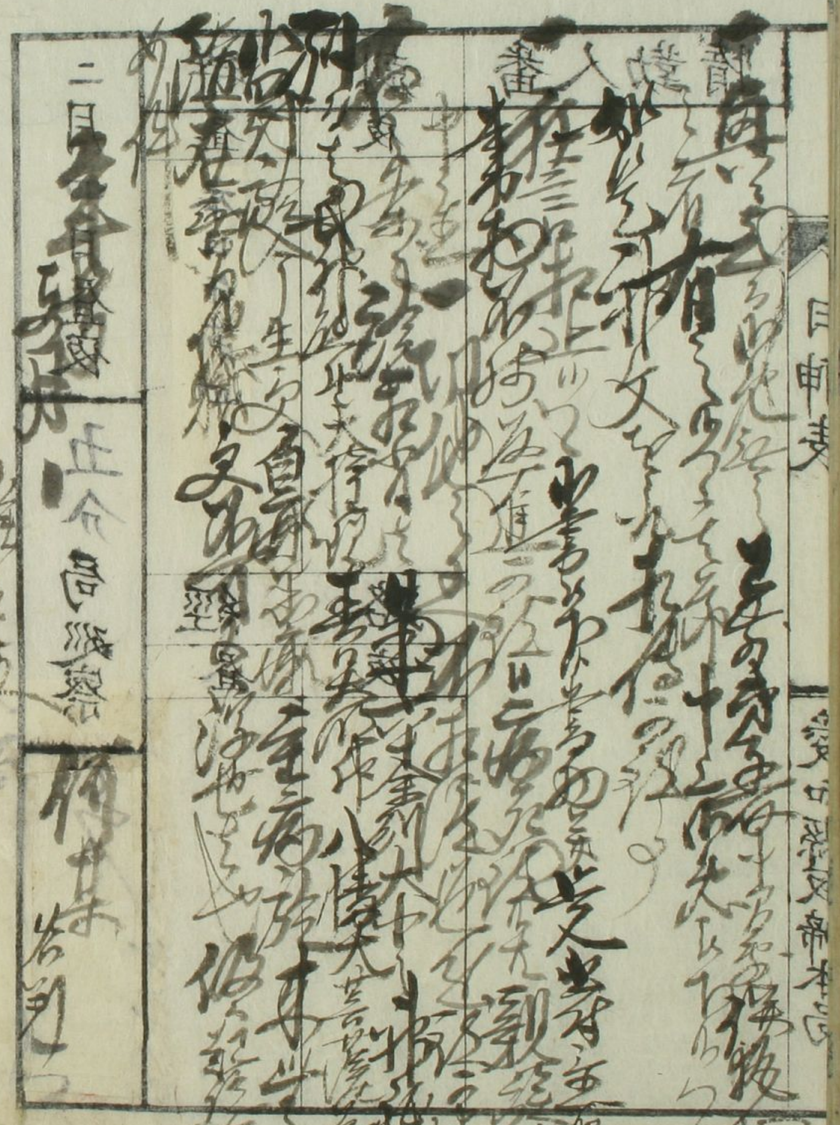
[illegible]

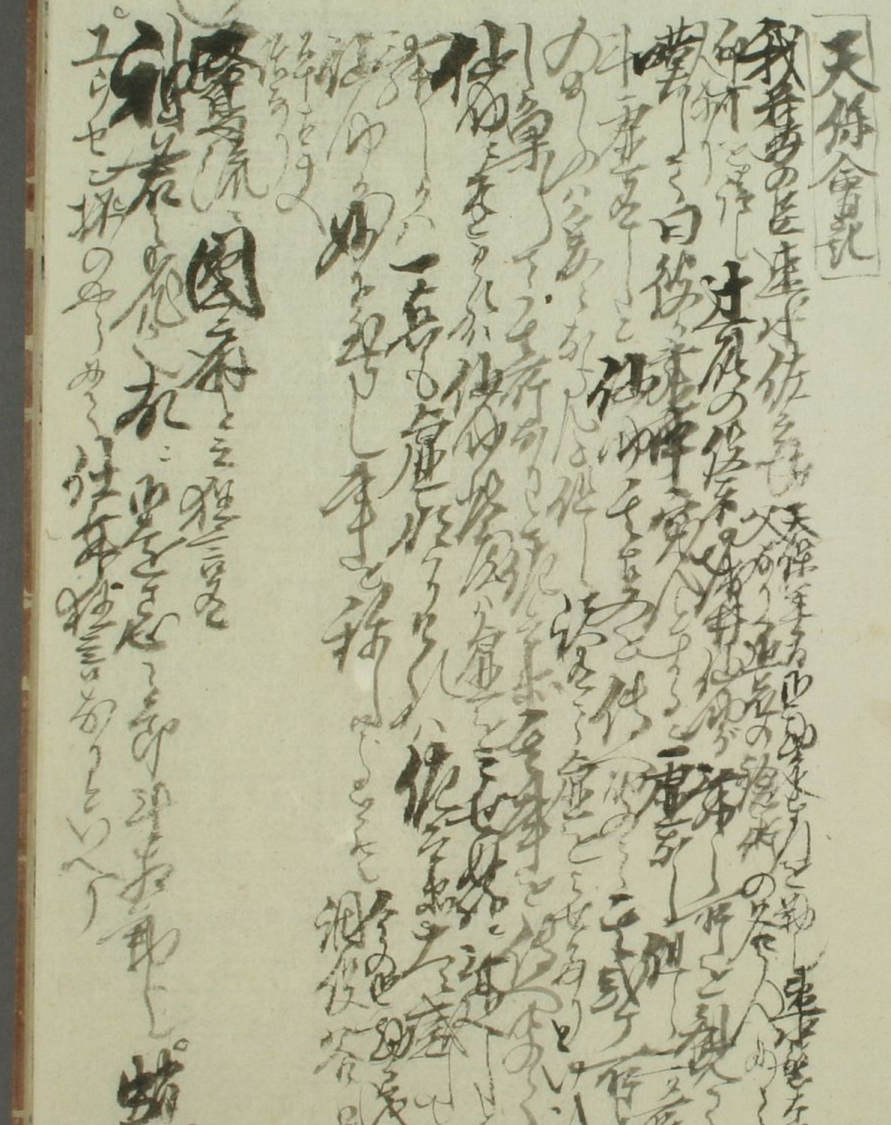
○[illegible]

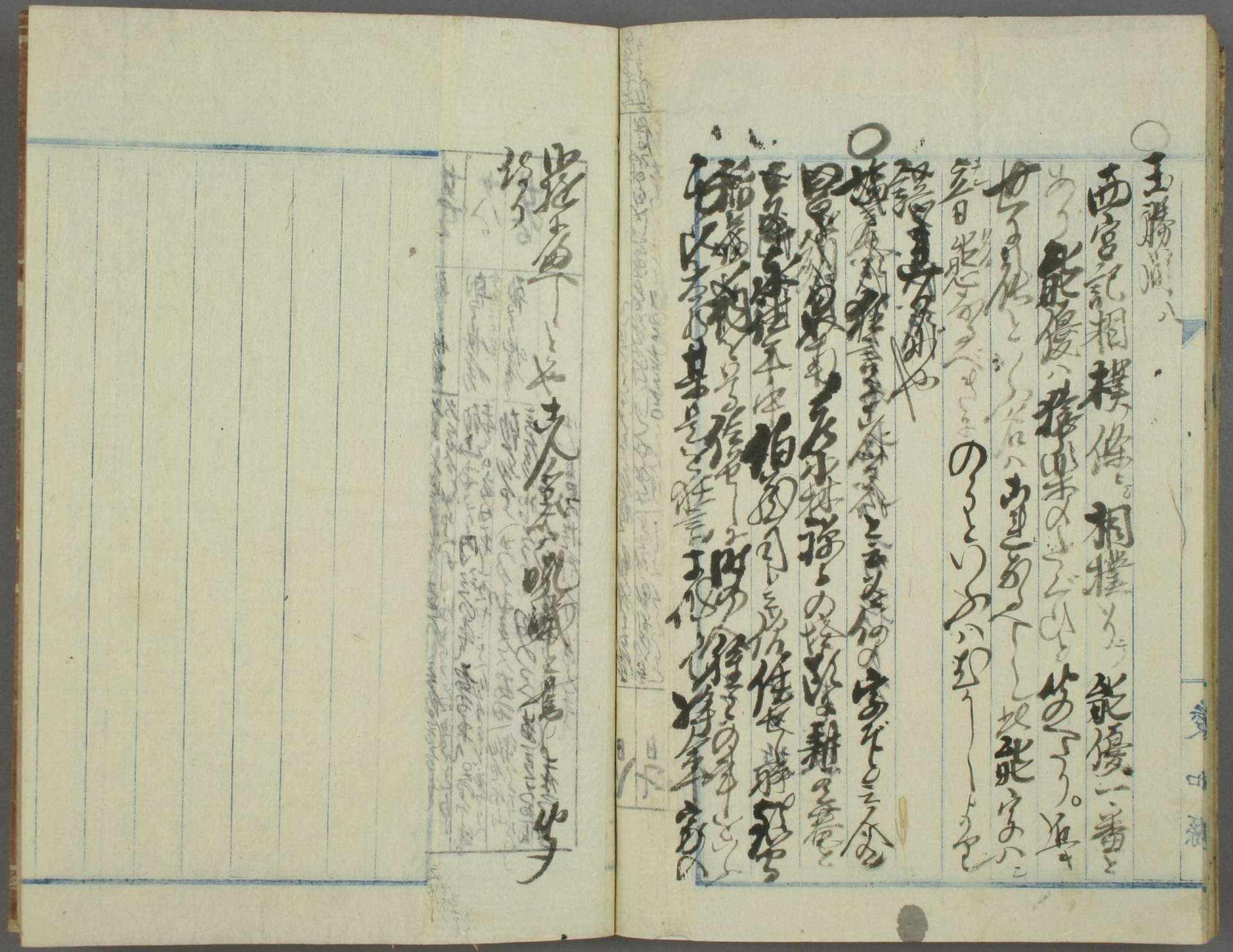
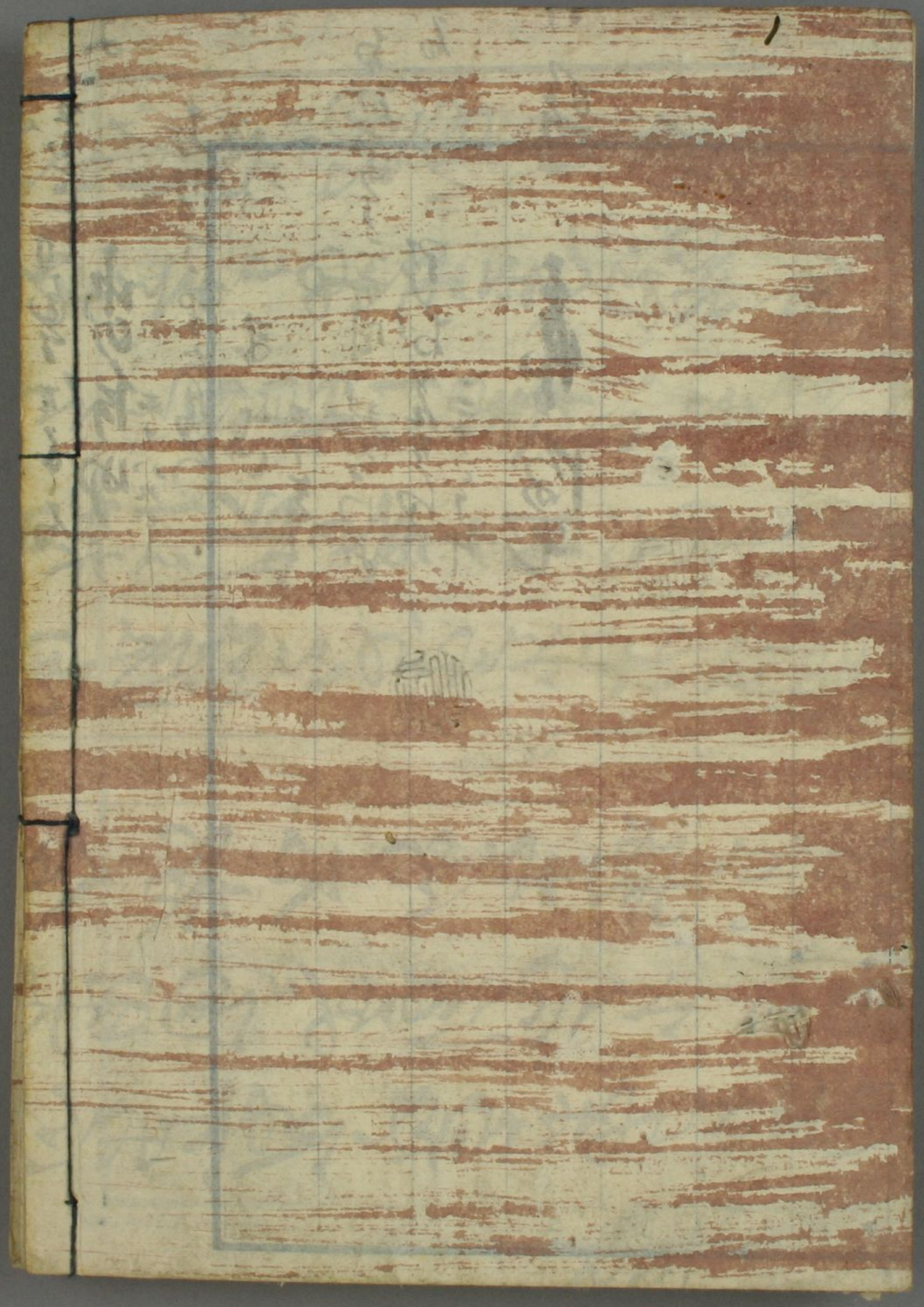
○[illegible]

○









以下
3丁
白紙